

定例調査

「北陸経済研究」2020年11月号掲載

北陸の産業天気図（22業種）と産業動向

北陸経済研究所では、北陸の主要産業のうち22業種について《2020年度上期の動向》と《2020年度下期の見通しと問題点》を調査し、産業天気図を作成した。

◎調査の概要

調査時期：2020年9月

ヒアリング企業・団体数：70

判定基準：ヒアリング企業の売上高、収益状況および業種全体の統計データから所内で合議

産業天気図一覧表

NO. 業種	19年度 下期	20年度 上期 見通し	20年度 上期 実績	20年度 下期 見通し		19年度 下期	20年度 上期 見通し	20年度 上期 実績	20年度 下期 見通し
製造業					非製造業				
1 アルミ建材					13 建設				
2 建設機械					14 マンション・住宅				
3 工作機械・工具					15 運輸				
4 繊維機械					16 大型小売店				
5 コンピュータおよび周辺機器					17 家電販売				
6 電子部品					18 自動車販売				
7 化学・医薬品					19 温泉宿泊				
8 プラスチック成形加工					20 ホテル				
9 繊維工業					21 外食産業				
10 食品製造					22 情報サービス				
11 眼鏡枠									
12 伝統産業									

晴れ： 薄日： 曇り： 小雨： 雨：

◎今回産業天気図のポイント

●概況

20年度上期見通しと20年度上期実績を比較すると、上期中に“下方修正”した業種は12業種、“上方修正”した業種は2業種。

上方修正した「建設」「家電販売」の2業種は、19年度下期実績（いずれも「薄日」）に戻ったものであり、前期比較では横ばい。

下方修正した業種のうち、19年度下期実績と比較して2ランクダウンしたのは「工作機械・工具」「繊維機械」「眼鏡枠」「外食産業」の4業種で、いずれも「曇り」から「雨」。

「温泉宿泊」「ホテル」では「雨」から「小雨」へと改善を見通していたが、コロナで大きな打撃を受け、業況はさらに悪化。

20年度下期に向けては7業種で回復を見込んでいるが、1年前（19年度下期実績）と比較して好転するのは「電子部品」「温泉宿泊」の2業種。

ランク別の業種数

業種数	19年度	20年度	20年度	(参考)			
	下期	上期	下期	リーマンショック時			
	実績	実績	見通し	08年度		09年度	
				下期	上期	下期	上期
				実績	実績	実績	実績
晴れ	2	0	0	0	---	0	---
薄日	2	4	3	1	化学・医薬品	1	化学・医薬品
曇り	10	1	5	1	食品製造	1	家電販売
小雨	5	8	9	4	コンピュータ プラスチック 家電販売 情報サービス	3	電子部品 プラスチック 自動車販売
雨	3	9	5	16	上記以外	17	上記以外

リーマンショック時		2008年度	→	2009年度
		下期実績		上期実績
好転した業種	電子部品	雨	↗	小雨
	家電販売	小雨		曇り
	自動車販売	雨		小雨
悪化した業種	コンピュータ	小雨	↘	雨
	食品製造	曇り		雨
	情報サービス	小雨		雨

今回		2020年度	→	2020年度
		上期実績		下期見通し
好転する業種	電子部品	小雨	↗	曇り
	食品製造	雨		小雨
	眼鏡枠	雨		小雨
	運輸	小雨		曇り
	自動車販売	小雨		曇り
	温泉宿泊	雨		小雨
	外食産業	雨		小雨
悪化する業種	建設	薄日	↘	曇り

●上期に大幅悪化した景況感は下期にやや改善へ

各業種の景況感を数値（「晴れ」=5、「雨」=1など）に置き換えて産業規模により加重平均したところ、20年度上期は全産業では2.31となった（図表1）。19年度下期は3.08であったので、0.77低下したことになる。業種別では、製造業が2.07（▲0.83）、非製造業が2.57（▲0.68）となっている。20年度下期は全産業で2.56（+0.25）となる見通しである。業種別では、製造業は2.33（+0.26）、非製造業は2.80（+0.23）となる見通しである。

●今後の回復は経済活動の再開次第であるが、新たな動きも出てきている

20年度下期の北陸の産業見通しは、改善に向かうものの水準としては依然として低い状況が続くとみられる。

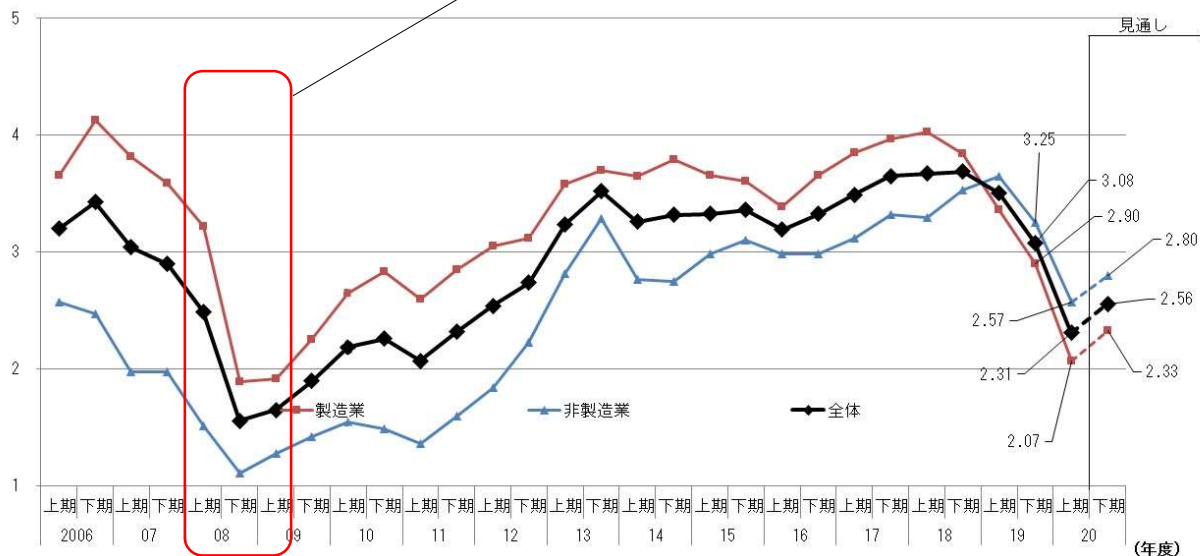
経済活動が徐々に再開されていることを前提としたうえで、非製造業のうち「運輸」「自動車販売」「温泉宿泊」「外食産業」といった人・モノの移動が関係する業種については、好転が見込まれている。なお、観光・飲食需要喚起策としての「GoTo トラベル・イートキャンペーン」については、経済効果を期待する見方はあるものの、再度感染拡大を招く恐れもあり効果は限定的であるといった慎重論もあり、評価は分かれている。

また、コロナ禍での消費マインド低下による影響、および経済活動自粛に伴う受注量の減少を背景とした売上高・生産高の低迷により、製造業は全体的に不振が続くようである。

こうした状況のもと、新たな生活様式を前提とした住宅関連、テレワーク関連、感染防止対策商品関連などで新商品を提案して需要を掘り起こそうとする動きが出てきており今後期待したい。

図表1 ランク加重平均の推移

リーマンショック時



(注) 20年度下期は見通し。各業種のランクを数値に置き換え(「晴れ」=5、「薄日」=4、「曇り」=3、「小雨」=2、「雨」=1)、これを各業種の直近の産業規模で加重平均した。

☆以下、景況感に変化のあった業種についてポイントを解説します。

<製造業>

1. アルミ建材

20/上見通し：曇り ↓ 20/上実績：小雨 20/下見通し：小雨

4～6月の全国新設住宅着工戸数は前年同期比▲12.6%と低調となり、持家が同▲18.1%、貸家が同▲12.3%といずれも全体の着工戸数を押し下げた。持家が伸びなかった要因として、昨年10月に実施された消費税増税による反動減のほか、新型コロナウイルスの感染拡大が重しとなった。

今般のコロナ禍により、例年夏休みに実施されていた学校施設の改修が延期され、さらに官公庁関連施設の建設中止が相次ぐなど受注機会の減少が目立った。

2. 建設機械

20/上見通し：曇り ↓ 20/上実績：小雨 20/下見通し：小雨

北陸主要4機種のうち主力製品である「油圧ショベル(ユンボ)」の生産台数は前年同期比2～3割のマイナスとなり、それに次ぐ「ホイールローダー(タイヤで自走するショベル)」は1～2割の減産となった。台数は少ないが「ブルドーザ」が4割ほど落ち込んだ。国内向けに次いで多い北米向けも上期は需要が減少した。

3. 工作機械・工具

20/上見通し：小雨 ↓ 20/上実績：雨 20/下見通し：雨

日本工作機械工業会が集計する会員企業の月間受注総額は、2019年8月以降は好不調の目安となる1000億円割れが続いている(直近では2020年8月(速報)が前年同月比▲23.3%の約679億円)。欧米向け輸出が過半数を占める北陸産地では、渡航制限によって海外での営業活動が停止し、売上が伸びない状況にある。月別の売上が前年比3割～5割のマイナスが続き、当期決算では赤字ギリギリを覚悟するメーカーが多い。

4. 繊維機械

20/上見通し：小雨  20/上実績：雨 20/下見通し：雨

新型コロナウイルスの感染が拡大し、主力販売先である中国ユーザーとの商談ができなくなり、受注や生産は再び低調に転じた。各メーカーでは夏ごろまでには感染拡大が収束するだろうと期待していたが、工場は上期を通じて大幅に稼働率を下げた。これにより、売上高は前年同期比で3割～5割減少し、利益が確保できない水準にまで落ちた。

メーカー側からは「リーマンショックの際は出口が見えていたが、今回はユーザーの投資マインドまでが失われ、回復時期がまったく読めない」との厳しい声が聞かれた。



6. 電子部品

20/上見通し：小雨 20/上実績：小雨  20/下見通し：曇り

世界のスマートフォン市場は前年比マイナスが予想されているが、5G対応機種をはじめとして部品の小型化・高性能化によって部品搭載個数が増加することから、コンデンサをはじめとしたスマホ向け部品全体としては横ばいないしプラス基調が見込まれている。

中国を中心に世界の半導体需要は回復しており、データセンターや5G基地局向けとなる半導体製造装置に関する電子部品については、引き続き需要が見込まれている。

10. 食品製造

20/上見通し：小雨  20/上実績：雨  20/下見通し：小雨

<20 上期実績>



長期低下傾向が続いた北陸の食料品工業の生産指数は、3月以降の学校給食の休止、緊急事態宣言下での飲食店や宿泊業の休業、外出自粛要請、相次ぐイベントの中止などの影響を受け、4月以降対前年比▲20%前後の減少が続いた。

また、北陸短観における飲食料品製造業の業況判断DIも6月以降マイナス幅が拡大した状態が継続するなど、北陸の食品製造業も新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きな影響を受けることとなった。

<20 下期見通し>

緊急事態宣言解除後は観光客や飲食店の客数も徐々に戻りつつあり、最悪期は脱したものと見られるが、8月には感染再拡大により客数は再び減少に転じるなど、今後の業務用・観光向け食品製造業の生産・販売はまだ模様を描きながら徐々に回復していくことが予想される。

11. 眼鏡枠

20/上見通し：曇り  20/上実績：雨  20/下見通し：小雨

<20 上期実績>



福井県の眼鏡関連の生産指数は4～6月期に前年同期比▲47.4と大幅に下降している。輸出額も前年同時期と比べてほぼ半減しており、好調に推移していた欧米ブランドのOEM生産がほぼストップした状態となっている。福井の眼鏡産地のメーカーは生産調整を余儀なくされているなど苦境にある。国内市場では新型コロナウイルスの感染拡大による店舗閉鎖などで、産地製品の高額品の伸びがあまり良くない。安価な均一価格を強みとするスリープライスショップにおいても、4月～5月の売上が前年同時期の7割減との話も出ている。

<20 下期見通し>

業界は春と秋が大きな受注機会となるが、コロナ禍で商談活動が制限されたまま9月を迎えている。今後の大口受注のためには秋の展示会を開催できるかが非常に重要である。ただし秋に受注できたとしても、納品の時期は年明け。業界は中小零細企業による分業体制で成り立っており、サプライチェーンの一つでもつまずけば、全体に混乱が及びかねない。今以上に業界団体、自治体の支援が必要である。

<非製造業>

13. 建設

20/上見通し：曇り  20/上実績：薄日  20/下見通し：曇り

<20 上期実績>

北陸3県の2020年4月～8月における公共工事請負額は、前年同期比+4.4%（4～6月+8.1%、7～8月▲9.3%）となり、同時期に着工した民間非住宅建築工事予定額も前年同期比+1.5%（4～6月+31.6%、7～8月▲39.9%）と、公共・民間とも前年を上回る水準を維持した。

公共工事については、福井県の大型プロジェクトが進行していることや、防災・減災・国土強靱化対策事業の執行により発注工事が増加している。民間工事については、期末時点では一定水準の手持ち工事が存在しているとみられる。

<20 下期見通し>

公共建設・土木工事は下期も好調な動きが続くものと予想される。他方、民間工事においては、製造業などで設備投資計画の見直し・延期の動きが広がっていること、また足元の民間非住宅建築工事予定額にも減速の傾向が見られていることから、今後については不透明感が高まっている。

15. 運輸

20/上見通し：曇り  20/上実績：小雨  20/下見通し：曇り

<20 上実績>

全国の一般貨物の輸送状況は昨年10月以降前年割れの状態が続いている。消費増税により荷動きが悪化していたところにコロナの打撃が加わりダメージが広がった。政府の緊急事態宣言が解除された5月に底を打ったが、7月に入って再び感染拡大傾向となり物流需要は再び落ち込んだ。

<20 下見通し>

今後の見通しについては、引き続き新型コロナウイルス感染拡大による影響は大きいものの、経済活動が徐々に再開されていることなどから改善する見込みである。ECの利用拡大で個人向けの配送は今後も増加傾向にある。BtoBの物流需要は自動車など製造業の荷動きが依然として弱いものの、大手自動車製造の生産台数は持ち直し傾向にある。

17. 家電販売

20/上見通し：曇り  20/上実績：薄日 20/下見通し：薄日

北陸3県の家電大型専門店販売額を見ると、2020年4月は前年割れとなったが、5月以降は前年を上回っている。新型コロナウイルスの感染が拡大する中で増えた在宅時間を充実させるための「巣ごもり消費」や、定額給付金10万円の支給などが追い風となった模様である。

18. 自動車販売

20/上見通し：曇り  20/上実績：小雨  20/下見通し：曇り

<20 上実績>

2020年4～6月期の北陸地域における乗用車新車登録台数、軽自動車届出台数はいずれも前年同期比で3～4割減となっており、北陸の自動車販売は大きく落ち込んでいる。前年同期に消費税率引き上げに向けた駆け込み需要が発生しており、前年と比較すると基調として購買意欲は低くなると予想されていたが、そこに新型コロナウイルス感染症の影響が重なった。

<20 下見通し>

北陸の自動車販売は、緊急事態宣言の解除以降、緩やかな持ち直しが続いている。新型コロナウイルス感染拡大の小康状態が続けば下期も緩やかに復調が続きそうだ。

19. 温泉宿泊

20/上見通し：小雨 ↓ 20/上実績：雨 ↑ 20/下見通し：小雨

<20 上実績>

北陸主要7温泉の宿泊客数動向対前年比で見ると、4-6月期では▲90.4%と大幅な落ち込みとなった。コロナ禍の想定以上の拡大と長期化が響いた。8月以降は国のGo to トラベルキャンペーンが始まったものの、周知不足や東京が対象から外されたほか、短くなった夏休みなどの影響を受けて数字を落としている。

<20 下見通し>

次第に客足は戻ってきてはいるものの、10月から東京も追加されたGo to 施策効果が未知数であり楽観はできない。秋の行楽シーズン、年末年始の宴会シーズンに大きな感染がなければ、客足自体はかなり戻ってくると予想している。支給済みの持続化給付金や節約疲れ・引きこもり疲れの反動などもあり観光需要が回復すれば、台風や新幹線の運行停止の影響を受けた昨年並み程度には回復する可能性がある。

20. ホテル

20/上見通し：小雨 ↓ 20/上実績：雨 20/下見通し：雨

今年上半期の都道府県別の延べ宿泊者数推移（速報値）をみると、新型肺炎の影響を受け全国的には前年同期比▲52.2%と大きく落ち込んだ。北陸3県では、富山県が▲50.7%石川県が▲55.0%福井県が▲43.8%となっている。特にインバウンドの比重が高い石川県での落ち込みが目立った。

3月のヒアリング時点では、「暖くなれば感染も収まり徐々に回復に向かう」との楽観的な見方もあったが、実際には収束せず、むしろ第二波以降が続き、前年比約半分以下の宿泊客数という厳しい状況。

21. 外食産業

20/上見通し：小雨 ↓ 20/上実績：雨 ↑ 20/下見通し：小雨

<20 上実績>

2020年度上期の北陸の外食産業は、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな打撃を受けることとなった。特に4月の緊急事態宣言、外出自粛要請、および飲食店への営業自粛要請の影響は甚大で、4月後半からゴールデンウィーク明けまで休業する店舗が北陸でも相次ぎ、4～5月の売上が前年比で半分以下に減少したところも相当数存在したとみられる。

<20 下見通し>

緊急事態宣言の解除をはじめとする各種制限の緩和により、6月以降は昼型の店舗を中心に来店客数および売上の減少幅が縮小しつつあり、足元では前年の8～9割の水準まで回復しているという声も聞かれる。

感染者数が再度増加した8月は売上の減少幅が再度拡大したものの、9月の4連休には売上が前年並みに回復したという飲食店もあり、感染防止対策で減らしてきた座席数を見直すなど、今後の感染状況を見ながら徐々にコロナ対応フェーズの転換を図る動きも出始めている。

22. 情報サービス

20/上見通し：晴れ ↓ 20/上実績：薄日 20/下見通し：薄日

情報サービス業売上高は全体としては前年比プラスを維持して堅調推移とみられるが、「受注ソフトウェア」「システム等管理運営受託」などの企業向けサービスは期初から前年比マイナス基調となっている。コロナ禍においても、IT利用により働き方改革などにつながるDX（デジタルトランスフォーメーション／デジタル変革）投資が幅広い業種で活発である一方、既存設備の更新投資などには消極的な動きがみられ、対象業種や対象業務によって明暗が分かれつつある。ヒアリング企業のなかでも、受託ソフトウェア部門については少しずつ案件の凍結や先送りの動きがある。